

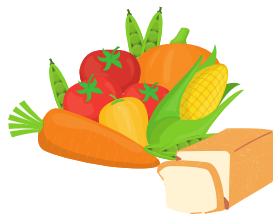
1945年10月16日に国連食糧農業機関（FAO）が設立されたことを記念し、世界の食料問題を考える日として制定されました。世界の人々が協力し、世界中で起きている栄養不良、飢餓、極度の貧困を解決していくことが目的です。

## 日本では

まだ食べられるにもかかわらず捨てられた食品（フードロス）は年間約**523万t**（2021年）でした。  
※年次推移は各省庁のHPに掲載されています。  
**日本人1人あたり毎日茶碗1杯分のご飯を捨てている**のと同様状態です。

### 食品ロスの中身（例）

**事業系**：売れ残りや返品、飲食店での食べ残し、規格外の農産物や加工品など  
**家庭系**：料理の作り過ぎ、買い過ぎ、下処理で食べられる部分まで除去してしまうなど



## 世界では

- ・年間約**25億t**のフードロスが発生しており、この量は**1年間に生産された食品の約40%に相当**します。（2021年8月時点の推計）
- ・一方、**6.91～7.83億人**が飢餓に直面しています。（2022年）
- ・飢餓に苦しむ人々のほとんどは開発途上国に住んでおり、食糧を買うための十分な収入を得られていません。
- ・**環境破壊**の影響で、自然に頼った農業を行う農家は大きなダメージを受けています。
- ・農作物の価格は、収穫量のほか、災害・戦争・経済不安などの国際市場・情勢の動きにも影響されます。

## 日本の目標

2030年までに、1年間のフードロスの量を2000年当時の量（下記）から半減させる

### 2000年当時の食品ロス

事業系：547万t

家庭系：433万t

### 主な対策

賞味期限の表記や納品期限の見直し、持ち帰りの促進、フードドライブの活用など

## やってみよう！

# Let's Try !

地球上には、すべての人が健康で生産的な生活を送るために必要な栄養素を摂れる十分な食料があります。

**食料を無駄にせず、皆が満足に食べられるようにするにはどうしたらよいだろう？**  
**考えてみよう！**

## 十分な食糧が得られないと

必要な栄養が足りず、体や頭・心をしっかり動かせなくなって仕事や勉強ができなくなったり、免疫や抵抗力が低下することで病気になりやすくなったりするなど、生活・命に関わる問題に直結してまいります。

参考・引用

- ・農林水産省HP「食品ロスとは」「2.食品ロスの削減に関する法制度・目標」
- ・国際連合食糧農業機関（FAO）「The State of Food Security and Nutrition in the World 2023」（英語・データ上の18ページ）
- ・世界自然保護基金（WWF）・テスコ（イギリスの大手スーパー）「Driven to Waste: Global Food Loss on Farms」
- ・日本財団ジャーナル「世界で捨てられる食べ物の量、年間25億トン。食品ロスを減らすためにできること」（2023年1月24日）

**もっと国際デー！**

関連情報を調べてアクションをおこしてみよう！

Together, We Can CHANGE the World はじめてみよう！あなたにできること。

FTCJはあなたの好きなこと・特技を活かした国際協力をおすすめしています。あなただからこそできる国際協力を一緒に探しませんか？全国のメンバーが様々なアクションを起こしています。アクションのヒントはコチラで検索！



FTCJ 活動ヒント

検索

©認定NPO法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン

最終更新：2024年4月23日